

22/5/18 名古屋市会経済水道委員会（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

委員長 渡辺義郎（自民・北区）：最後の委員会でございますので、有終の美を飾っていただきたいと思います。

ぜひ皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

大変ただいまから経済水道委員会を開会いたします。

本日は、観光文化交流局関係の請願審査を行った後、観光文化交流局関係の所管事務調査を行います。

次に、観光文化交流局関係の所管事務調査を行います。

本日の案件は金シャチ横丁第二整備（芝居小屋風多目的施設）の整備計画についてであります。

それでは当局の説明を求めます。

折戸観光文化交流局長

局長：失礼いたします。

本日当委員会でご調査いただきます案件は、金シャチ横丁第二期整備芝居小屋風多目的施設の整備計画案についてでございます。

平成24年度に策定いたしました金シャチ横丁基本構想に基づき、食事を取りながら憩い、くつろいでいただき芝居などの鑑賞もできる休憩施設としての整備を検討しております。

本日は、今後の整備に向け整備計画の内容につきまして、ご報告させていただきます。

詳細につきましては総務課長からご説明申し上げますので、よろしくお願いいたします。

大島庶務課長：それでは金シャチ横丁第二期整備芝居小屋風多目的施設の整備計画案につきまして、お手元の資料に従いご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。恐れ入りますが表紙をお開きいただきまして1ページをお願いいたします。

1 事業の経緯でございます。

平成24年度に世界の金シャチ横丁（仮称）基本構想策定後、平成29年度には第1期事業を開業し、名古屋城および周辺の魅力向上に寄与してまいりました。

引き続き、平成30年度に第2期整備に向けた検討に着手し、令和3年度には基本構想の検討を進めてまいったところでございます。

続きまして2 芝居小屋風多目的施設の整備計画でございます。

まず（1）施設の整備方針でございます。

ア整備目的といたしまして、休憩所と飲食場所を充実させ、名古屋城観光のおもてなし機能の強化を図ることなど2点を掲げさせていただきました。

次にイ整備予定地につきましては、図の太枠でお示しさせていただいております。

名古屋城正門前に第Ⅰ期事業として開業した義直ゾーンの東側のエリアを想定しております。

2ページをお願いいたします。

(2) 施設の規模機能でございます。

ア整備規模等といたしまして、建物規模や施設用途と建物デザインをまたイ機能等といたしまして、席数舞台などを区分ごとにその内容を掲げさせていただきました。

建物規模は延べ床面積1200平米程度、席数は、休憩所として200席程度を想定しております。

次に(3)の活用につきまして、特別史跡内には新たな設置が難しい団体客にも対応できる休憩場所とするほか、現在は活用されていない閉園後の時間帯に演芸場として利用することなど8点を掲げさせていただきました。

また(4)概算整備費として約8億円を想定しております。

3ページに参りまして、(5)施設の配置計画でございます。

ア休憩場利用時平面計画イメージおよびイ演芸場利用時、平面計画イメージをそれぞれ掲げさせていただきました。

上の図にありますように、休憩所としてはフードコート形式で200席程度を確保し、舞台上の演舞等を鑑賞しながら休憩ができるようになっております。

また下の図にありますように、演芸場として利用する場合には、可動間仕切りにより客席を区分することができ構造となっております。

4ページをお願いいたします。

ウ外観イメージといたしまして、芝居小屋風多目的施設の外観のイメージ図を掲げさせていただきました。

最後に(6)整備スケジュール案でございます。

令和4年度の基本計画の策定から開業までのスケジュール案を掲げさせていただきました。以上誠に簡単ではございますが、資料の説明を終わらせていただきます。

よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

委員長 渡辺義郎(自民・北区)：説明が終わりましたので、ご質疑があればお許しをいたします。

うえぞの晋介(民主・西区)：ありがとうございます。

ちょっと簡単にいくつか確認をさせてください。

いただいた資料2ページ目ですね活用方法の案の中の、現在は活用されていない閉園後の時間帯に演芸場として利用と記載がありますが、利用できる時間帯は何時ぐらいまでを想定されるんでしょうか。

鈴木保存整備室長： こちらの資料に活用の一例としまして、閉園後の時間帯の活用についてご提案をさせていただいております。この施設のこれから決めていく段階にございますので、施設自体が営業する時間としては今後の検討にしようかと思えます。

うえぞの晋介（民主・西区）： わかりました。

今後の検討ということで、ちょうどこの芝居小屋ができます場所が、今現在民間に貸し出しをしております、バーベキューパークみたいな形で運用されているというふうに思っています。

これはこの金シャチが開業してからこういった形式でずっと続いているのかなあと。途中からコロナがあつたりして、営業が停止されたときもあつたように思います。私以前このバーベキュー場ですね活用させてもらったことがあるんですが、その際にこの東側の、ごめんなさい、西側のちょうど名古屋城正門前の駐車場ですね利用させていただいたことがありまして、その際に、正門前の駐車場が閉まる時間がとても早かった印象があつて、慌てて車を出さなきゃいけないというようなことがあつたんですが、この名古屋城の駐車場、要は正門前の営業時間は今どういった営業をされてるんでしょうか。

鈴木保存整備室長： 名古屋城の正門前にございます駐車場ですけど、こちらをご利用いただける時間としましては夜は21時30分までとなっております。

うえぞの晋介（民主・西区）： 21時30分以降については、車の出し入れができなかったというふうに私記憶をしています。

それで併せて一方で東側の宗春ゾーンについては、ちょうどその北側に市営駐車場がありますがそちらの営業時間はどうなってるんでしょうか。

鈴木保存整備室長： こちら二之丸東駐車場でございますけど、こちらの営業時間、入出庫が可能な時間としましては22時30分まででございます。

うえぞの晋介（民主・西区）： はいありがとうございますということは駐車場の利用時間、営業時間がそもそも違うということ。これは何か違いが決められてというところで、何かその部分の詳しい詳細を教えてくださいませんか。

保存整備室長： 駐車場のご利用時間につきましては、原則的には周辺施設のご利用の状況などを参考にして決めているところでございます。現状では正門前のエリアに比べますと、宗春ゾーンの店舗の方が時間的に遅くまで営業しておるものですから、そのために延長されておりまして、このようなずれが生じております。

うえぞの晋介（民主・西区）： はい、これぐらいにしておきますが、今回この芝居小屋風の新たな施設を検討されるにあたりましてですね、名古屋城が閉園後ということでもいいのかな、更なる活用というふうに考えますと、こういった正門前の駐車場の閉じ営業時間についてもですね、しっかりと来場いただく方の利用の更なるです。

なんていうんですか、利便性の向上みたいなのはですね、セットでしっかりとこれ考えるべきだというふうに思いますが、その点のお考えを聞かせてください。

鈴木室長： 最初に申しあげましたようにこの施設を何時まで稼働させ得るかということは今後の検討にはなって参りますが、私どもとしては、演芸場として夜間での活用を視野に入れておりますことから自動車でのご利用については、大事な検討項目であろうと認識しておりますので今後は他の駐車場の事例なども参考にいたしまして関係局と協議を進めてまいります。

うえぞの晋介（民主・西区）： 私は以上で終わります。

岡本やすひろ（民主・緑区）： 2点だけお願いします。

まず機能等のところでですね、この時代になくはならない、WiFiがないと私は思ってるんですが、名古屋フリーWiFiとか、金シャチ横丁では事業者が独自でのWiFiをやっていたという事もお聞きするんですが、その名古屋エリアや名古屋城の中で使えるのとかその事業者の使うという理解なのか、いやいやここにもちゃんとつけますけど忘れてましたということなのかどちらでしょうか。

鈴木整備室長： はい、WiFiいわゆるフリーWiFiについてのお尋ねでございます。

まず少しだけ現状をお話させていただきますと今の第1期に開業しました金シャチ横丁の中では事業者が独自でWiFiを展開してお見えになります。

それから名古屋城の場内につきましても、全域ではございませんが、スポット的にはフリーのWiFiが使える状況になっております。

今後の施設でどうしていくかということなんですけど、私どもとしましては、こうしたフリーWiFiというのはですね、お客様が訪れた方々がお手持ちの端末で、名古屋城の情報ですとか、観光情報を手軽に得ていただけるというふうに考えておきまして、利便性や快適性の向上に資するものと考えておりますので検討してまいりたいというふうに考えております。

岡本やすひろ（民主・緑区）： ぜひね、WiFiはもう標準装備ということで、特にまたそこにもう一つ言うとコンセントね、充電。今いろんな飲食店には充電設備も充実しておりますので、そこはお願いをしておきたいと思います。

2点目、3ページの下絵を見ると、可動式間仕切りがあるということで、先ほどご説明があった通り、この舞台を使うときにはここが閉まってということなんですけど、そういう言い

方がどうかあれなんすけどフードコート形式、フードコート形式というかこの物販受付とかいろいろあるところを200人ぐらいの人が入るということで、さっきご説明があったと思うんですが、本当に200人の人が入って間仕切りをして、もしかしたら舞台でお金を払って見に来た人たちが、フードコートにいる人たちの声で何も聞こえないというようなことはないのかどうかだけご説明いただけますでしょうか。

鈴木室長： ご確認のためのお尋ねありがとうございます。

今私どもが想定している利用の形態としましては、あくまでお昼の一般の名古屋城観光のお客様が入る時間帯につきましてはこの3ページの絵でいきますと、上の利用だけをお昼間は想定しております。下の絵というのは主には夜間の劇場として専用利用するときのイメージを載せておまして、その場合は、飲食のお客様はここにはいないという想定で記載をさせていただきますし、今の想定はそのように考えておるところです。

岡本やすひろ（民主・緑区）： 当局の今の説明ではわかるんですが、よりですね、貸し切りのときはここは逆に言うともしかして誰もいない状況を作るということなんですが本当にそれでいいのかなど。上手に使えば両方使えるのではないかなというのがありますので、これ以上申し上げませんが、十分いろんな工夫をしてですね。より良いものを作っていただきたいことだけお願いをしておきます。以上です。

委員長 渡辺義郎（自民・北区）： 関連ですね。

浅井正仁（自民・中川区）： さっきのこのイメージ図なんですけども、この物販受付というのは、どういったものを売るのか。

名古屋城に関連するものなのか、それとも劇をやる人のよくあるTシャツだとか、扇子だとかね、嵐みたいにストラップだとか、ね、ナゴヤドーム行くと外にテント張って夜中からみんな並んで買うんだけど、この物販っていうのは、何を売るものなのか。

鈴木室長： はいありがとうございます。

ここに記載させていただいております物販というのはですね、今委員がおっしゃられた中で後の方におっしゃられました実際に講演される方のグッズのようなものをイメージしております。

浅井正仁（自民・中川区）： そしたらですね、さっきのあの休憩等、何だ、劇。

岡本委員が言った両立。幼稚園の子供やね保育園の子供それからお年寄りの方、名古屋城はやっぱり休憩するところがない。待ち合わせ場所がない。これよく聞く話です。

確かにね、雨の日だとか、それからバスの待ち合わせだとか、炎天下の中で屋根のあるところで待ちたいだとか、それは必ずニーズがあると思います。

そんな中でね、この休憩場フードコート形式っていうのが書いてあるんだけど、ね、ここで飲食を出すということでもいいんですよ。

一応この資料には軽食って書いてありますけど、

鈴木室長： 飲食機能というのはですね、一つにはお客様が持参していただけるお弁当のようなものをここで食べていただけるようにしたい。

続いて今の第1期の飲食店も含めまして、例えばテイクアウトのようなお弁当があればそれも食べれるような状態にしていきしていきたい。

それから、加えまして、この平面図の中には店舗ということで軽飲食店がございます。こちらはあのスペースの都合から、大規模な厨房とかの設置は難しいと考えているものですから、主にはあの喫茶ですとか、あの軽食といったものをお出ししたいと、そういったものをこの休憩所でとりながらくつろいでいただきたいというふうに考えているものでございます。

浅井正仁（自民・中川区）： そうするとですねここで軽いものが食べれたり、飲酒飲食、要はコーヒーだとかそんな感じだと思うんだけど、今の現実のあそこのお店の中には、飲み物を出す店はありませんか。

鈴木室長： ちょっと全てのお店のメニューまで把握しているわけではございませんが、あの、それぞれの店舗ごとに食事に合わせて飲んでいただけるような飲み物のご準備はあろうかと思えます。

浅井正仁（自民・中川区）： そうすると今、非常に金シャチの飲食店の人たちは苦勞されると聞いてます。でここで安いフードを出すと、今出しているお店の人たちがもっと圧迫することはないんですか。

鈴木室長： 飲食店と形態として一期は比較的質の高いといいましょうか割としっかりとした食べ物を食べれる店舗が並んでいる。特にこちらのゾーンはそういったゾーンだというふうに認識しております。一方こちらの芝居小屋の多目的風施設の中の店舗につきましては、あの、やはりもっと軽い一期の店とは少し方向性の違うものが提供できるのではないかというふうに考えております。

浅井正仁（自民・中川区）： では今、現在出している店舗の方々にそういうことはもちろん相談されていると思えますけども、私達のお客をそちらに引っ張られるんじゃないかという心配という声はありませんか。

鈴木室長： こちらの計画を作ってくるにあたりまして、事業者へのヒアリングは実施しております。

今運営されている事業者にお話をお聞きしますと、むしろお客さんが多い日には各店舗に入りきれないお客様が多くおられるというふうに聞いておられますので、そのようなお客様に、別の場所で食べていただける場所を提供できるということで、テナントの方にもご理解いただけるのではないかとこのように考えております。事業者の方からこのようにお聞きしております。

浅井正仁（自民・中川区）： 現実今やられてる方たちとしっかりそこら辺は詰めていっていただきたいと思えますんで一旦終わります。

江上博之（共産・中川区）： 今名古屋城と言いますと、天守閣の木造化の問題がありまして私自身は木造化の前にやるべきことがあると、そもそも木造化、今やるべきじゃないということをおし上げてまいりましたが、一方で、こういう今回の施設を見ますと休憩場、飲食場所、これは木造化であろうがなかろうが、やっぱり必要なものかなあということは思っております。その上で今回の施設の必要の出発点といいますかね、特に団体客、こういう方々が休む場がないとかいうことができたのではないかと思います、そういう出発点を踏まえ、また今日までの間で、それに加えてこういうことについても加えてきたとか、そういう点があれば説明していただきたいんですけど、

鈴木室長： はい、この施設でございますけど、今委員がおっしゃられたように団体利用の対応というものが名古屋城の大きな課題の一つでございますので、それに対応しようと計画してきましたが、それよりもそもそも名古屋城全体として、休憩スペースでございますとか飲食スペースが不足しておりますので、それに対応することが一番の目的というふうに考えております。

その上で、せっかくの名古屋城のお膝元に整備する施設でございますので、伝統的な地歌舞伎やお芝居に触れていただけるような個性を持った休憩所として平成24年度に策定しました構想の項から、このような形で打ち出してございまして、そういった機能面に関しましては、現在に至るまで変更はございません。

江上博之（共産・中川区）： 先ほどこの利用の専用のね、利用の話がありましたけど、もう一つ私思いますのは、せっかくこういう舞台のようなものがあって、名古屋っていうのは練習施設がいろんな芸術関係でね、なくて、以前も決算委員会で100%の利用に近いじゃないかと、少しでもこういう練習場を用意してほしいと。練習場となりますと働く皆さんからいうと、例えば中村区の稲葉地町にあります演劇練習館なんかある意味で利用者に任せてるってこともあるでしょうけど、夜の12時とかね、大変遅くなる。それは勤務時間を考えれば9時半でもどうかなと思ってるようなところがあって、まずは練習場という利用というのがね考えられるのかどうか、その点はまずいかがでしょうか。

鈴木室長： 先ほどのご答弁と同じようにですね、私ども事業者へのヒアリングを重ねてきたわけですけど、その中で名古屋市内で実際にそういった会館などを運営している事業者の方にもヒアリングをさせていただいております。そのような中で市内でいわゆる演劇などを練習できる場所の稼働率が非常に高いということで、ニーズが非常にあるということは私ども承知をしております。

したがって、今回の建物の活用策の一つとしましては、仕事後に練習していただく。またそういった方々の活動のすそ野を広げるような、そのような役割ができればというふうに考えておるところでございます。

江上博之（共産・中川区）： そういう方向を大変重要なことだと思っておりますが、そうなることですね、実は駐車場ぐらいしか車ぐらいじゃないとね、バスはまず来ないしねその夜の時間。ちょっと離れたところでもありますから、逆にやる方から言うと大きな声出しても大丈夫なところがあるかもしれない。そうすると、9時半とか10時半でも、実は駐車場の利用がいいのかなと、もっと柔軟なことは考えられんのかなと思っておりますがそこら辺の点についていかがでしょうか。

鈴木室長： はい委員おっしゃるようになりますね、やはり演劇を練習される方の手持ちの道具などもあろうかと思っておりますので、あの自動車を利用したいという方も多くおられるのではないかと考えています。先ほども申し上げましたように駐車場の利用時間に関しましては、周辺の施設の利用状況に応じて柔軟に考えてまいりたいというふうに考えておりますので、こちらの施設ともしっかり関連するように、時間的にリンクするように考えていきたいというふうに考えます。

江上博之（共産・中川区）： そういうこともこの策定に当たってね少しずつ広げていただくようにできたから使えますよってということじゃなくて、やっぱり途中経過を含めてね、やってって盛り上げていただくことが重要ではないかと思っております。

もう一つですね、やっぱり名古屋城の一番僕は問題だと思うのは、二の丸庭園の何かやるとか天守閣なんかやってるとか、石垣やるとかいろいろあるんですけども、金シャチ横丁もやってるとかあるんだけど、全体がね、イメージがいつも何か全体の集計といいますか、そういうものがなかなか見えてこない保存活用計画ってのはあるんですけども、もちろん金シャチ横丁なんか入っていない。そういう点では全体をもっと見る中で、その周辺施設等も含めて、管理をどうしていくか、特にこういう利用ですからね。民間にっていうのは単純じゃないと思っておりますから、そこら辺のことに、そういう管理体制、これはどういうように考えてみえるのか、いかがでしょうか。

鈴木室長： 管理運営に関してでございますけど、これはこれからの本当にこれからの検討となってまいります。まずは直営での運営というのはいろいろ難しい点があるかという

ふうに考えておりました、一定の事業者をお願いする可能性があるというふうに考えております。

で、その場合におきまして、やはり委員がおっしゃるように、名古屋城がやろうとしているコンセプト、本当に一言で申し上げれば江戸期を伝えるといったような名古屋城が考えているコンセプトから、その事業者さんのやり方が逸脱するようなことはあってはならないというふうに思っておりますので、事業者の選定でありますとか、その後の運営に当たりましては、事業者任せにせず、第1期事業者も含めてしっかりと連携をとってまいりたいというふうに考えております。

江上博之（共産・中川区）： 例えば今江戸期と言われましたけど、今名古屋城のいろんな施設って、江戸時代260年の中で、ある意味では慶長とか宝永とか、あるいは化政とか、ある意味でいいとこどりといいですかね、一番華々しいところをこうやってる。この芝居小屋にしても修景といいますか、これも江戸時代の中でもいろいろあろうかと思うんですね。江戸時代の芝居があったと思いますけれども、何らかの時代背景、絵に外観イメージ書いてありますけども、こういうイメージにしても、どういう時代がいいのかってことは、ちょっと考える必要があるんじゃないかなと思います、そこら辺の点はどうでしょうか。

鈴木保存整備室長： 名古屋城整備に当たりましては、江戸期という260年間の長い間を一つのテーマに持っております。今おっしゃるように、その中で各施設が一番隆盛した時期、一番良い姿であった時期というものを来場されるお客様に見ていただきたいということで、今委員がおっしゃられたようなちょっといいとこ取りのようなやり方をしていることは事実でございます。

お芝居に関しましては7代将軍の宗春様の頃からあの尾張藩では推奨されてきて、いわゆる尾張藩の中には多く建てられていたというふうに考えておりますので、時代としてはその頃の時代をイメージしながらやっていきたいというふうに考えております。

江上博之（共産・中川区）： 1ページの整備予定地のところを見ますと、金シャチ横丁義直ゾーンと書いてある字の下が、あの通路なのかなと思いつつながら見てるんですけど、ここはこういう敷地区域になってるのはね、何か利用を考えてなってるのかそこら辺いかがでしょうか。

鈴木室長： はいこちらは敷地、敷地上の問題でございます。

江上博之（共産・中川区）： あの敷地上だから、結果的にはここは何になるのか通路なのか、単に今たまたま区域がね、別な所有者になって、なってるんで今度のところの所有者だから、こうにしたことなのか、何か上物の事業目的といいますか、そういうものがあるのかどうかそこら辺どうでしょう。

鈴木整備室長： 大変失礼いたしました。敷地の形ということでお話をさせていただきましたが、ここがどのように利用されていくかということで少しだけ歴史的な話をさせていただきますと、この土地には過去に亀尾天王社といういわゆる神社、お社が建立されておりまして、その頃の名残でこの長細い場所にはその庭園の跡であったのではないかとされているような場所が長細く、今はございます。そこは大切な場所でございますので、保全をするとともにそこにどういった歴史があったかっていうのをお客様にご理解していただけるように進めていきたいというふうに考えております。

江上博之（共産・中川区）： 名古屋城の敷地の中ではないけれども、やっぱり名古屋城の関連ですから、下のことも丁寧にね、過去のいろいろな経験もありますから、そういうことをやっていただきたいと思います。以上です。

副委員長 三輪芳裕（公明・天白区）： 少し確認しておきたいのでお願いいたします。金シャチ横丁の充実というのは僕は会派の要望事項でもありますので、これまでの委員会でも何度か質問して確認してまいりました。当局がこれ課題として挙げています団体客への対応、これをぜひ実現してほしいと思っておりますが、まず初めに、現状では団体客ってのはまだ少ないですね。

鈴木保存整備室長： コロナ以前に比べますと、バスツアーのお客様などをはじめまして、大人数団体でのご利用は減少しております。

副委員長 三輪芳裕（公明・天白区）： 今後、団体客が戻ってきたときにこの休憩所が休憩場が力を発揮すると思いますが、席が全てねこれ団体予約で埋まることも考えられるんでしょうか。

整備室長： 休憩所の利用としましては概ね 200 席をご用意させていただく計画でございますので、物理的にはその辺まで対応が可能だというふうに考えてます。

副委員長 三輪芳裕（公明・天白区）： 利用が増えるのは本当これ喜ばしいことで、ありますんで、そういう状態になってしまいますと一般の方が使えなくなると、団体客でいっぱいですよということになってしまうのではないですかね。それに対してはどのように考えてますか。

鈴木保存整備室長： はい団体客はもちろん使っていただきたいんですけど、そもそも名古屋城全体として休憩場が不足しているということが課題でございます。したがって、一

一般客すいません団体客に対応する言葉とし一般客と言わせていただきますけど、一般客と団体のお客様それぞれが快適にご利用していただけることが肝要であろうかと認識しておりますので、具体的な運営については今後詰めていきますけど。繁忙期の考え方、それから閑散期の考え方、こういうのをしっかり考慮した上で、例えば予約を取るにあたっては、ピークの時間を避けて予約をしていただくなど、そういった配慮を事業者と一緒にやっていきたいなというふうに思っております。

副委員長 三輪芳裕（公明・天白区）： あともう一つ確認ですけれど、建物って、当然バリアフリーですよ。

鈴木室長： 建物の中のトイレには車椅子用のトイレも設置する予定をしております。当然にしてですね、この建物は基本的に段差のない構造としたいというふうに思っております。

副委員長 三輪芳裕（公明・天白区）： 先ほどの団体客のことでもそうですが、団体客でいっぱいになっちゃってね、一般の人がもう休憩が一切できないようなことがないようにね、しっかりと工夫をしていただいて調整をしていただきたいと思います。

そしてまたバリアフリーに関しても、そういった障害者の方も含め来場者が快適にね。どなたも快適に楽しんでもらえるように工夫をしていただきたいというふうに要望しておきます。

よろしく願います。はい、以上です。

委員長 渡辺義郎（自民・北区）： ありますか、はい浅井委員。

浅井正仁（自民・中川区）： そしたらちょっと質問させていただきたいと思いますが。今三輪委員もね、岡本委員もやっぱり団体の休憩施設のことは大切だということで、ちょっとこの芝居小屋の話をちょっと聞きたいと思えますんで。

そもそもこの休憩所と芝居小屋を両立させる目的は何でしょうか。

鈴木室長： 訪れる方に休憩をしていただきながらも、名古屋の伝統文化に少しでも触れていただきたいということで、それを両立したいというふうに考えておるところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）： この休憩をしながらっていうのは休憩をしながらこれ、あの前売り券とかそういうので多分売るイメージなんだけど、券っていうのは芝居を見せるっていうのは、例えば、観光バスできましたお客さんが。2時間名古屋城で遊んできてくださいと。

そのスペースのときに、使うわけじゃ、芝居は見れないんですよ。

閉園後しかやらないって言ってんだから、

鈴木整備室長： ここを演芸場として、そういった利用形態で上演をするのは夜間がメインというふうに今、委員がおっしゃるように考えております。

お昼間は例示をさせていただきますと、例えば今城内で野外ですけど、名古屋の武将隊が演武をしております、それをお客様が座って見ていただいているという状態でございます。これを舞台上演をしながらそれを見て一休みしていただけないかなど、こういったのが昼の利用形態として考えておるところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）： 昼の休憩のときに武将隊の人たちがやると、夜間はここに書いてある地歌舞伎化だとか、本業の人たちが定期的に芝居をするというイメージでいいですかね。

鈴木整備室長： はい、いくつかのやり方があるとは思いますが、事業者が自主事業としてそういった劇団の方に依頼をするやり方もあると思いますし、貸館事業として、出来上がっているお芝居を公演していただくこともあろうかと思ったり、少しロングラン公演といましようか長い期間夜をずっと貸し切っていただいて、続けるというような公演形態もあろうかと思ったり。

浅井正仁（自民・中川区）： そうするとこの整備費がまず 8 億円ってあるんだけど、その 8 億円の中にはこの舞台、もちろん入ってると思うんだけど、舞台音響その部分はお幾らぐらいなんですかね。

鈴木整備室長： 大変申し訳ありません。今ちょっとお手元に正確な数字を持ち合わせておりません。

浅井正仁（自民・中川区）： 舞台って高いと思うんだよね。今日所管なんですよね。まあいいですけど、その舞台と、今ある能楽堂との住み分けはどうするんですかね。

上田名古屋城総合事務所長： いわゆる能楽堂をはじめですね、26ヶ所程度名古屋市内に文化施設がございます。私も以前担当させていただいております。そういったところとのですね、住み分けというか、どのような違いがあるのかというお尋ねであると考えております。先ほど担当主幹がですね申し上げたところでございますが、今回の多目的施設の整備の主目的としては二つおさらいでございますが、1点目は団体の方も当然そうですが一般の皆様です、来場の方の休憩と飲食の場所これを確保したいと。2点目としては、そういう訪れた方にですね、名古屋の伝統芸能などをですね、気軽に鑑賞する、そういったまずはそういう機会を提供したいというこの2点でございます。

夜間とかですね、一般のご利用の方がおられないときには、クローズな形で有料公演を開催をする形ですが、昼間のメインの時間帯にはですね、無料の形で気軽にご覧いただくというようなことで考えておるところでございます。

そうした中で能楽堂をはじめですね文化施設については、委員ご指摘のようにですね、大変あのしっかりとした舞台を備え、客席もしっかりと腰を据えてご鑑賞いただけるような設えをコストもかけて、設置をしておりますが、今回についてはですね、まずは来場された方に気軽に楽しんでいただくというのが趣旨でございますので、舞台についてもあまり貧相ではいけませんけれども、そういう専用の舞台とはちょっと異なっておりますね簡易のですね、舞台装置を設けて、なるべくコストもですね、過大にならないような形での整備を考えてはどうかというふうに考えておるところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）： 今所長が84ヶ所って言ったっけ、名古屋市内でごめんなさい。

上田所長： 私の記憶は26ヶ所程度、ごめんなさい、すいませんちょっと若干ずれておったら。記憶が定かでないので申し訳ございません。

浅井正仁（自民・中川区）： その26ヶ所には民間も含めての26ヶ所なのか、名古屋が持つとその文化小劇場だとかそういう行政がやっとなるので26ヶ所なのか。

上田所長： 私が申し上げたのは、名古屋市として所管をしておる名古屋市の多文化施設、文化小劇場あるいは市民会館、能楽堂等々で文化関係のところということでございます。

浅井正仁（自民・中川区）： それではですね、もちろん、PFIで提案でやられると思うんだけど、要は作った後、運営費がかかりますよね。

当然、今言った劇の収益、フードの物販、でフードの飲食、それから物販、そういった差し引いたもの等収益と支出の差額を税金で賄うという感じでいいですかね。

鈴木保存整備室長： この施設につきましては、指定管理者というものを視野に入れておりますけど、管理運営に係る経費としまして、人件費でありますとか、光熱費はかかってまいります。

それから、逆に収入につきましては貸館事業でございますとか、あの物販や飲食の収入を想定しております。他の今の類似の文化施設の状況を見ましても、市が一定の負担をすることは想定しております。

浅井正仁（自民・中川区）： そうすると年間どれぐらいの収益があって、ね、名古屋市がどれぐらい毎年税金を投入するのか。

まだ業者提案も何もないからわかんないと思うんだけど、でも、ある程度のね、この基本構想を出された以上、想定はしていると思うんですけど、どれくらい毎年かかるんですかね。

鈴木保存整備室長： 本市の負担額につきましては今後施設の使用料ですとか利用料金制度を導入していくそんな検討していく中で、精査していくものというふうに認識おりますけど、参考としてですね、類似施設であります文化小劇場の例で申し上げますと平均しますと、年間でだいたい6000万円から7000万円が市の負担となっております、事前の私共のあの事業者の試算においてもそう遠くない数字ではないかなというふうに考えております。

浅井正仁（自民・中川区）： そうすると、整備費で8億ね、毎年6000万。観文が持つとる公会堂あそこの毎年の指定管理料はおいくらですか。

鈴木整備室長： はい名古屋市公会堂でございますと、今の私が申し上げた6000万から7000万に対応をする数字としましては、9800万余程度でございます。

浅井正仁（自民・中川区）： 毎年6000万ずつね、投入して200席。  
名古屋市民にこれはどういったメリットがあるのか、はたまた観光客を目当てに造るものなのか、どちらでしょうか、両方でもいいんですけど。

鈴木保存整備士長： この施設は、金シャチ横丁の構想の中で、名古屋の文化として受け継がれてきた芸能催しを鑑賞したり食事を取りながらくつろいでいただける多目的空間を進めるということで、これまで検討してまいりました。  
であの今委員、ご指摘のように一定の維持管理費はかかって参りますけども、横丁を訪れていただく方々に横丁を華やかな空間でおもてなしをしまして、伝統的な文化に触れていただき、深みのあるものにしていただきたいというふうに考えておりますので、市民の方、観光客の方含めまして、ここを訪れる方々に楽しんでいただきたいというふうに考えております。

浅井正仁（自民・中川区）： 民間でこういう劇場ね。有名なのがやっぱ大須演芸場ですよね。

それから名演ってありますよね。最近円頓寺で名古屋座ありますよね。  
大須演芸場にしろ、名演にしろ大変苦勞されてると、昔ニュースでよく取り上げられてました。

で片方で、劇場で、名古屋市は税金を投入して運営していくと。  
メインが休憩場なのかわかんないんだけど、そうすると、そちらの民業、これそちらの施設を使うことによって、ね、民間でやるとるそういう劇場が圧迫っていうことはないのか、そういったところにももちろんヒアリングはされてると思います。  
どういった意見があったんでしょうか。

鈴木室長： はい事業者の方々へのヒアリングも実施しております。  
今委員おっしゃられた円頓寺の歌舞伎ですと、40席前後というふう聞いておりますし、大須演芸場でいきますと200席弱というふうにお聞きしております。  
複数の事業者の方々にヒアリングしてまいりましたけど、いくつかご指摘いただきましたのは名古屋市内にこういった100から150程度の席数の芝居小屋は少ないということで需要があるのではないかとというふうにはヒアリングの方でお聞きしておりますので、それは引いては裏返せば、その席数あたりには委員おっしゃられるような民業圧迫するようなそういう劇場はないのではないかとというふうにお聞きしております。

浅井正仁（自民・中川区）： ライバルになるのかな、ちょっとそれはわかんないんだけど、とにかくその芝居にしても、今日はやって今日はやらないとかね。  
せっかく名古屋に来たのにやってないだとか、その1年間のちゃんとスケジュールを出して、この日はやってるというふうじゃないと、また同じ芝居でも劇団四季なんかそうですね、ロングランでやるとるけど。どうせやるならばね、どうせ作るならばね、やっぱり名古屋でしかないような物を作るべきだと思うんですよ。  
中途半端なものばっか名古屋は作るって言われるんじゃないかと、今その歌舞伎、名古屋座の歌舞伎の人たちかいつもなんか30人から40人ぐらいの人たちが出待ちしとるっていう、名古屋の武将隊だってね、こないだも荒子に呼んだときに、やっぱり女の子たちが追っかけてくる。  
そうやって地に根付いたものを作り上げていくことが必要だと思うんですけども。  
そういった選定を踏まえて、やっていただきたいということでお願いしたいんですけども

委員長 渡辺義郎（自民・北区）： あなたでまあいいけどさ、ちょっとどうだな基本的なことを言われとるから、局長御答弁一つ。

折戸局長： ただいま浅井委員から重要なお指摘をいただいたと聞いております。  
今ご指摘の中にもございましたが、民間の運営ノウハウというのは非常に参考になると思いますし、そういうものを参考にしつつですね、名古屋独自のというか、唯一の地についたようなそういった施設にしていきたいというふうにお聞きしておりますので、そういった形にしながらですね、民間のそういう劇場さんとも共存した形で、名古屋市内全体を盛り上げていければなというふうにお聞きしておりますので、よろしくお聞きいたします。

中里高之（自民・緑区）： 冒頭、渡辺委員長がおっしゃったように、今日このメンバーでやる委員会の最後ですので、全体的にちょっとお尋ねをしたいと思います。1年間この名古屋城のことっていうのは、皆さんが精力的に議論をされて本当にいい委員会だったかなというふうに思います。やっぱり原点っていうのは、やっぱりリニアが開通すると、東京まで

40分、大阪まで20分ぐらいで行くもんだから、名古屋が飛ばされちゃうことで、そういうことがないように、名古屋は観光産業に力を入れようじゃないかというのが基本だと思います。それで名古屋駅地区、栄地区、大須、金山、こんな中心部のところでですね力を入れて、名古屋市はお金をかけたり、しっかりと整備をしたりしてるわけなんですけども、やっぱり尾張名古屋は城で持つというぐらいに、名古屋で来た人がどっか行こうじゃないかって言ったときは、名古屋城になると思います。

名古屋城を盛り上げるためにですね、いろんなことをやられてる。その中の一つが金シャチであり、この芝居小屋っていうふうだと思います。

今後ですね、どんどん私は個人的には名古屋城がさっき言った通りにですね、名古屋の観光を牽引するようなことになると思いますけれども、全体的に総合的に局長、どんな意気込みでこれからやっていけるかっていうことをですね、最後にちょっとお聞きしたいと思いますが、お願いを致します。

折戸局長： 失礼します。

名古屋城ではですね、ただいまのご意見の中にもございましたが、木造天守の復元ですとか、二の丸庭園整備など様々な取り組みを通じまして、世界に誇れる日本一の近世城郭を目指しておりまして、金シャチ横丁は、名古屋城を訪れる方への質の高いおもてなしの提供や、にぎわい空間の創出などを目的に整備を進めてまいりました。

そうした中今回の多目的施設の整備によってですね、今まで以上に充実した名古屋城体験が実現できるということに加えまして、芸どころ名古屋が誇る伝統文化に触れる機会や、その中で市内や周辺の観光情報提供等を通じてですね、尾張名古屋文化の旅の起点としての役割ホームを担い、周辺観光資源との相乗効果を発揮させることで、名古屋市全体の観光の盛り上げを図ってまいりたいと、そういうふう存じておりますので、よろしく願いいたします。

中里高之（自民・緑区）： 今、局長さんからですね、前向きなことをおっしゃっていただきました。名古屋城は、国宝1号ですんで、日本国中守っていくと、世界的にも注目されている可能性は十分にあります。名古屋市民のためにもですね、日本人のためにも、この国宝1号をしっかりと活かしていただいて、もっと言えば国、県、市しっかりと連携をしてですね、名古屋の観光産業を盛り上げるような取り組みをさらに推進をしていただきたいということを、最後に申し上げて終わりたいと思います。

委員長 渡辺義郎（自民・北区）： いいですよ。他にないようであります。

以上で本件を終了いたします。

説明員の入れかえをお願いします。

この意見だね。これだけだね。いいですよ。

それでは、当委員会は本日が今日の区切りになろうかと存じますので、この場をお借りいたしまして、正副委員長代表して一言ご挨拶をさせていただきます。

コロナ禍の中にもありますので、着席のまま失礼いたします。

昨年9月に委員長に就任させていただきました。委員の皆様方のご指導ご協力のもと、充実した委員会の運営が行いましたことを、この場を借りいたしまして、深く感謝申し上げる次第でございます。

また、関係当局に置かれましては、そのご尽力にお礼を申し上げますとともに、当委員会の場で委員から出されました意見、要望等を今後の支援運営で役立てていただきますよう、切にお願いを申し上げまして、正副委員長代表してのご挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

この場、当局より発言を求められておりますので、お許しをいたします。

折戸観光文化交流局長： 失礼いたします。

お許しをいただきましたので、一言御礼を申し上げます。

この1年間、経済水道委員会におきまして、慎重かつ熱心なご審議を賜り、誠にありがとうございました。

ご審議の中で頂戴いたしました貴重なご意見、ご要望につきましては、十分にその意を踏まえまして、今後の事業運営に反映してまいりたいと存じます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、御礼の挨拶をさせていただきます。

ありがとうございました。

委員長 渡辺義郎（自民・北区）： 本日の予定は以上であります。

これにて本日の委員会を散会いたしますが、本年の経水委員会は、これにて最終でございます。

大変ご協力をいただきましてありがとうございました。